

意志決定そのものを景気循環に関わる推測から解放する

【現代の経営】P124

- ・ 不況の底で投資し、好況のピークでは拡張や投資を避けよとの助言は、意味がない。現在は景気循環のいかなる段階にあるのか、誰か知っているのか？
- ・ 事業のマネジメントにとって必要なものは、経済が景気循環のいかなる段階かを考える必要なしに、決定を行えるようにしてくれる手法である。

① 「過去の経験から想定される最も急激かつ最悪の状況を想定した場合、どのような決定をするか？」
必要最小限の利益を知るうえでは最も重要な手法である。

② 「すでに起こってはいるが経済への影響がまだ現れていない事象に基づいた場合、どのような決定をするか？」
【具体例】 世帯数の増加と人口構造の変化
しかし、何事も将来必ず起こるとはいえない。もし必ず起こるにしても、それがいつかはわからない。

③ 「経済現象の趨勢は、循環的な変動によって乱されはしても、長期的にどのような一貫した傾向があるか？」
傾向線は10年、15年、20年の期間で見るとき、一本の線になる。
経済現象は、急激に、あるいは突然変わることはなく、長期的な趨勢をもつという前提に立つ。

④ 「あらゆる決定について、どのような変更、適応、応急措置の準備を必要とするか？」
いかなる決定においても、起こりうる将来に対して可能なかぎり備えておかなければならない。
いろいろな手法を使っても、将来に関わる決定は推測にすぎない。推測は間違ふことの方が多い。